

7 日本水産学会・全国水産試験場長会 合同シンポジウムについて

(北海道立総合研究機構 水産研究本部長) 星野 昇

星野でございます。全国水産試験場長会では、各県が抱える懸案事項を取りまとめ、水産庁や水研機構に提出するという大きな流れとして行っておりまして、本日の午前中にも幹事会として今年度の課題について文書整理等を行ったところです。

水産学というものは、現場や研究者が抱える悩みや問題を解決する総合サイエンスであり、まさに我々が普段現場で仕事をしている上で直面している問題や、行き詰まっているテーマをアカデミアと共有することが、総合的に検討していく際の非常に大きな手掛かりになるのではないかと考えております。

かねてより水産学会から合同シンポジウム開催のお誘いをいただいていた経緯があり、本年度第1回(5月)の幹事会において検討し、「やりましょう」という方向で進めてきたところです。

その後、いろいろと検討を重ね、この資料でございます通り、令和8年3月26日に水産学会春季大会の理事会シンポジウムとして開催することとなり、実施内容も固まりつつあります。今月29日の水産学会理事会で最終的な承認を得て進める予定です。

当日は、東海先生と大村会長にご挨拶いただき、東海先生からご講演をいただきます。また、地域の水産研究の現状と課題について私から説明させていただき、その後、事例紹介として地域が抱える懸案事項のうち象徴的な研究事例4題を発表していただく予定です。

総合討論に関しては、幹事会の議論では、今後こうした地域の課題に対して成果を上げていく人材を学会も含めてどのように育てていくかという視点で話をしております。決定ではありませんが、東海先生と相談しているところです。

ぜひ、皆様および職員の皆さまにも積極的なご参加をよろしくお願いいたします。東海先生、補足があればお願いいたします。

公益財団法人 日本水産学会 会長 東海 正

星野副会長、どうもありがとうございました。私が会長になりまして、ずっとこのようなシンポジウムを開催し、水産学会、大学の研究所・研究機関、それから水産試験場の方々と一緒になって水産に関する課題に取り組むことを目指してまいりましたので、ようやくその第一歩ということで、シンポジウムをかなり無理を言ってお願いし、ここまでたどり着いた次第でございます。

この件については、9月の水産学会理事会において開催することが承認されております。今回の11月の理事会には、これについてそれぞれコメントをいただける水産学会

の理事、あるいは水産学会各懇話会、その他水産学教育推進委員会等の委員会がございますので、それと関連する先生方にコメントを出していただくなどのやり取りを行いながら、このシンポジウムの次に、そういった懇話会あるいは各委員会で、業界の問題としてシンポジウムや講演会を開催し、より深く議論を深めていけるような道筋を考えているところでございます。

もう一つ、先日副会長と打ち合わせをした際に、水産学会の総務担当理事を務めている吉崎先生が若手の会の担当をしております、彼のアイデアなのですが、これはぜひ学部の学生たちに聞かせたい、しかも1年生ぐらいから聞かせてやりたいという話をしていました。これはオンラインで無料で聞けるように、海洋大を会場として学生にも参加してもらい、こういった課題に取り組んでいる姿を学生たちに見せて、課題解決に取り組みたい意欲のある学生を育てていきたいと考えております。

ぜひこれに関しては、水産試験場の職員の皆様方がオンラインで参加できるようにしますので、ご参加いただき、ぜひご意見などを出していただければと思います。よろしくお願いいたします。

日本水産学会・全国水産試験場長会、合同シンポジウムについて

全国水産試験場長会 副会長（企画） 星野（北海道 BL）

全国水産試験場長会では、日本全国の地域が抱える水産に関する課題を取りまとめている。課題は資源管理、環境変動、増養殖、魚病防疫など広い分野に及ぶ。それらの課題解決には、地域の研究者による現場での地道な調査研究はもとより、専門的な知識、技術を有する多くの研究者が参画した学際的な研究を、現場で活用できる技術につなげていく必要がある。日本水産学会では、学術の発展と科学技術の振興に寄与することを目的として、水産学に関する学理及びその応用の研究についての発表及び連絡、知識の交換、情報の提供等の事業を行ってきた。この度、日本水産学会からの積極的な要請もあり、水産に関する地域の課題を広く情報共有して、今後の取り組みの方向性について意見交換を行うため、以下のシンポジウムを企画している。会員・貴所職員の積極的な参加をお願いしたい。

地域の課題に立ち向かう水産学のこれから（仮題）

日時・場所：令和8年3月26日（木）13:00～17:30 東京海洋大会場+ZOOM

企画責任者：東海 正（海洋大・日本水産学会 会長）・星野 昇（道中央水試・全国水産試験場長会 副会長）・木村 稔（道総研・日本水産学会 理事）

13:00–13:05 開会の挨拶 東海 正（東京海洋大・日本水産学会 会長）
 13:05–13:10 趣旨説明 大村英二（宮崎水試・全国水産試験場長会 会長）

I 講演

1. 水産業における研究と技術開発の必要性—これまでの理事会シンポの振り返り
東海 正（海洋大・日本水産学会 会長）
2. 地域の水産研究の現状と課題（レビュー）
星野 昇（道総研・全国水産試験場長会 副会長）

II 事例紹介

1. 資源管理体制の高度化に関する事例
宮崎県水産試験場
2. 養殖業の成長産業化に関する事例
香川県水産試験場
3. 有害・有毒プランクトンによる漁業被害対策に関する事例
北海道立総合研究機構
4. 内水面における加害生物対策に関する事例
滋賀県水産試験場

III 総合討論

8 その他 意見

徳島県立農林水産総合技術支援センター 山本 浩二

貴重なお時間をいただきまして、ありがとうございます。徳島県水産研究課の山本と申します。本日は、議題の直接のお話ではありませんが、徳島県から調査船に関連する協力要望や情報共有についてお話しさせていただきます。

本県では、現在の調査船がすでに船齢 20 年を超えていることから、令和 4 年度に代船建造の入札を実施いたしました。当時はウクライナ戦争等の影響もあり、入札は不調に終わってしまいました。その際は、もう無理だと先延ばししておりましたが、本年度も 6 月に再度入札を行いました。しかし、またもや不調となり、さらに再度入札を行いました。人件費や資材の高騰が追いつかず、再び不調となった状況です。

このまま先延ばししても、人件費や資材の高騰により年間 10% 程度経費が値上がりしていること、また造船所の船台が 5 年先まで埋まっている状況であると聞いております。その中で、建造に向けて取り組んでいるところでございます。

こうした現状を水産庁にも知っていただく必要があると考え、本年 10 月に知事が財政支援などの協議を取り急ぎ行うことを内容とした要望書を水産庁に提出しております。現在、調査船業務は各県それぞれが実施している状況ですが、今後、各都道府県でも同様の問題が発生する可能性が十分あることから、知事からは調査船の共有・共同運用や、今後 10 年・20 年先を見据えた調査のあり方を検討するよう指示を受けております。

これまで場長会でも、このような議論が繰り返されてきたと伺っております。また、各都道府県の事情も異なることから難しい面も重々承知しております。しかし、海況情報の蓄積は非常に重要であると認識しており、効果的かつ継続的に続けられる体制が構築できればと考えております。

本県としては、近隣県と調査業務の情報共有を実施し、できることから検討していきたいと考えておりますが、全国的にも今後同様の問題が発生すると思われまので、国の方でもさまざまな検討をしていただければと考えております。

また、場長会としても来年度以降、そのような事について、徳島県からも提案させていただきます。予定です。

9 次年度開催県

秋田県水産振興センター 中林 信康

秋田県水産振興センターの中林でございます。三木場長をはじめ、香川県の皆様方には本大会開催の労をお取りいただき、誠にありがとうございました。

これからの意見交換会、また明日の視察まで、どうぞよろしくお願いいたします。

来年は秋田県が開催地となりますので、万難を排して準備を進めてまいります。ぜひ秋田にお集まりいただきますよう、よろしくお願いいたします。

10 現地意見交換会

(1) 日時

令和7年11月19日(水)8:30~12:00

(2) 場所

香川大学 瀬戸内圏研究センター 庵治マリンステーション(高松市庵治町)
金刀比羅宮(仲多度郡琴平町)

(3) 参加人数

59名

(4) 行程

08:30 栗林公園駐車場 出発

09:15 庵治マリンステーション (概要説明)

10:15 出発

11:00 JR高松駅

12:00 金刀比羅宮 到着

~解散~

15:00 金刀比羅宮 出発

※JR坂出駅・高松駅及び高松空港へそれぞれバスで送迎した。